

## グループディスカッション ワークシート

グループ名: E

【テーマ】「当事者が安心して生活を送るためのつながりづくり  
～「つながる」ために課題となっていることを挙げ、  
その具体的な取り組みについて、多様な視点で語り合おう～」

ワーク1:「つながる」ために課題となっていることを挙げよう。

現在、地域の中でどのような「つながり」があるか。

- ・ 地域で騒ぐ方がいたが、なかなか介入できていなかった。65歳になったことをきっかけに、高齢分野から民生委員へ連絡が入ることになり、関わるきっかけとなった。
- ・ 白杖を持って街を歩くときに、「大丈夫ですか」と声をかけてくれる人がいたり（気が付けないうちもある）、トイレの場所などを周囲の人に聞くと教えてもらえたりするときに、つながりを感じる。
- ・ 精神障害など、障害特性によってはつながることが難しい場合もあるのでは。
- ・ ダジャレを言ってもいいようなくだけた雰囲気、いつ行ってもいい何をしてもいいコミュニティが理想。障害を理由に断られることもある。
- ・ 「つながり」としては、具体的な場所やコミュニティに限らず、道行く人や店員などの話かけやすい雰囲気も大事。
- ・ 知的障害では、コミュニケーションにおける障害について、間に入る人が必要。

「つながる」ために課題となっているのは、どのようなことか。

- ・ わからないことがわからない、知らないことを知らないこと。今回のように、直接会って相手を知ることが必要。
- ・ つながりが生まれうる場はすでにたくさんある。障害種別、特性、年齢…垣根を超えた既存の場を活用していくことが大切。

## ワーク 2：具体的な取り組みについて、多様な視点で語り合おう

ワーク 1 を踏まえ、具体的などのような取り組みができるか。

- ・既存のコミュニティにおいて、「誰でも来られる日」をつくる。
- ・びーとのチラシで、モルックのイベントを見た。自分の興味のあること、やってみたいことをきっかけにつながり作りができればよいと思う。
- ・住まい部会で、不動産屋さんに来てもらったときに、相互理解が大事だと感じた。不動産屋さんの思いと、借りる側の思いのすれちがいが生じていることもある。